

「東京の雪(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

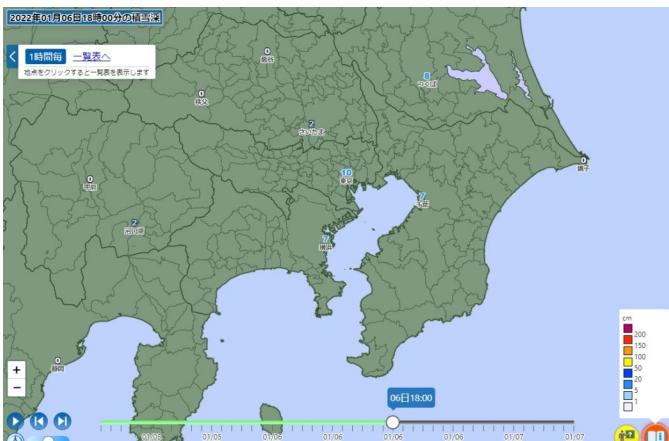
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「大雪」に学術的な定義はない。大雪とは「雪がたくさん降ること」または「たくさん降っている雪」である。場所(地方)によっても、どんな降り方を大雪と呼ぶのかは異なる。北軽井沢では 10cm の積雪では、除雪車も出ないし、大雪とも呼ばない。人の生活に何も支障がないからだ。

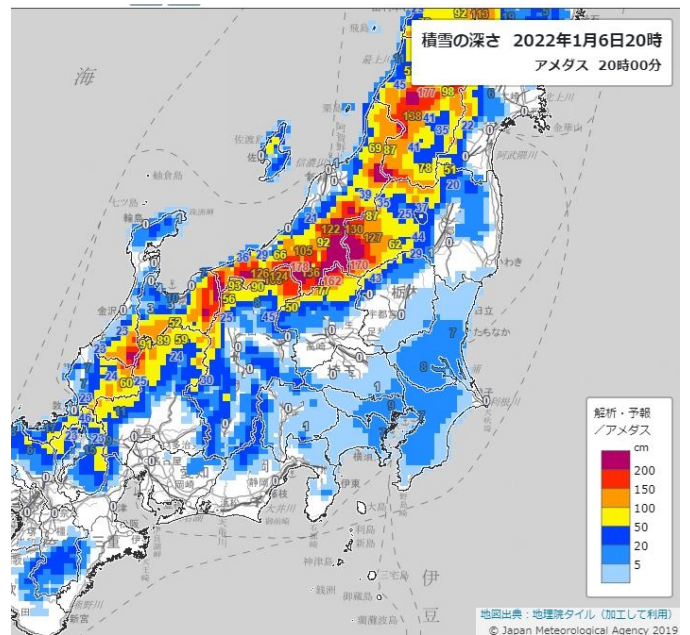


北軽井沢でも写真のように積もると、さすがに「大雪」と呼ばれる。しかし、近年ここまで積もることは稀で、せいぜい 20cm ぐらいのことが多い。しかも、北軽井沢は気候的には「太平洋側の気候」なので、何日も雪が降り続くことは稀で、大雪の翌日には晴れることが多い。ところが、東京ではわずか 10cm の積雪でも「大雪」となってしまう。関東の都市部は雪に非常に弱いからだ。



これは 2022 年 1 月 6 日 18 時のアメダス「積雪深」

の画像である。東京 10 (cm) と表示されていて、関東地方のどの観測地点よりも多い。こんなことは非常に珍しい。



これは同じ日の 20 時のアメダス「積雪深」広域図である。上越国境、信越国境、日本海側が多いのは当たり前だが、この日は北関東よりも、東京、横浜、房総など、南関東のほうが多く積もっていた。これも非常に珍しい現象である。



南関東に降雪をもたらす原因は、主に 2 つある。一つは「房総前線」である。南西からの暖気と、北西からの寒気が南関東でぶつかり、伊豆半島から房総半島にかけ気圧の谷ができ、局所的に停滞前線が発生するのである。この前線の存在は、かなり気象に詳しい人にしか知られていない。また、曲がった等圧線や前線記号も天気図には表示されないことが多い。また、房総前線による降雪は 5cm 程度のことが多く、今回のような都市部の大雪にはならないのが普通である。